

活動報告

春の訪れをみんなで祝おう

3月23日(日)にさいたま市の秋ヶ瀬公園でクルド人の祝祭ネウロズが開催されました。ネウロズはクルド語で「新しい日」という意味で、生命が厳しい冬を乗り越え、暖かい春へと切り替わる第一歩の日です。

クルドの伝統音楽をロック風にアレンジした生演奏に合わせて、輪になって何時間も踊り続けます。踊りは小指を繋ぎ小刻みに動かしながら前後にステップを踏みます。女性の色鮮やかな伝統衣装がよく映えます。私が輪の横で見よう見まねの踊りを楽しんで



たところ、親切なクルド人が声をかけてくれて輪の中に入り楽しく踊りました。ランチはケバブサンドとアイラン(ヨーグルトドリンク)を頂きました。

このように民族全体が老若男女問わず夢中になるお祭りに

参加したのは初めてで、とてもすがすがしい経験でした。来年はちゃんとステップを練習して臨みます。(会員O)

特別栽培認証 渋谷農園見学

4月22日(火)「こしがや子どもの食を考える会」主催で、渋谷農園(越谷市増森)の見学に行ってきました。(参加者7名、農業振興課職員2名)



渋谷農園では農薬や化学肥料を5割以下に減らした特別栽培で野菜の生産をしています。徹底した土づくり、ハウス・防虫ネットなどの技術で安定的な生産を確立している圃場では青々とした小松菜が成長していました。

日本の農業は、自給率の低さ、後継者不足など課題が山積しています。私たち消費者が地元の農家さんから買って支える意識をもつことが課題解決の近道です。美味しく、安全で、新鮮な渋谷農園の野菜はグリーン・マルシェで購入できます。

会では、学校給食の地場野菜使用率の向上に取り組んでいます。一緒に活動してくれる仲間を募集中です。(会員A)

アンケートにご協力ください

今回のレポートでどの項目に関心を持ちましたか。○をつけてください。

- ・男尊女卑依存症社会からの脱却
- ・代表質問
- ・総務常任委員会
- ・子ども・教育委員会
- ・女性差別撤廃委員会への拠出金停止 対抗でなく対話を
- ・ネットの視点
- ・活動報告

その理由をお聞かせください。

県政・市政についての要望や気になっていることをご自由にお書きください

編集後記



ネットのレポートは、運営委員みんなで作っています。私は自転車屋を営んでいます。自転車に乗ると、風を感じ景色を楽しんだり気持ちすがすがしくしますね。スマホや車から少し離れて、自分のペースでペダルをこぐ時間を持つてみませんか? 自転車も人も、定期的なメンテナンスが必要です。タイヤに空気を入れると軽くなるように、自分の心にも空気を入れてリフレッシュを～

運営委員 自転車屋あやのん

越谷市民ネットワーク議員



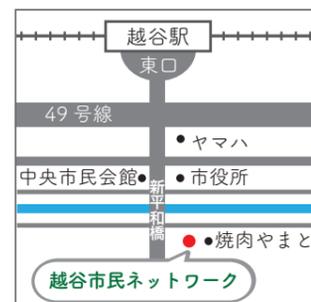
越谷市議会議員
山田 ゆう子
中町在住



越谷市議会議員
清水 泉
袋山在住



越谷市議会議員
大田 ちひろ
南越谷在住



市民ネット3つのルール

- ① 任期は最長3期12年で交代
- ② 選挙はカンパとボランティア
- ③ 議員報酬はみんなの活動費

お問い合わせ



越谷市民ネットワーク
〒343-0023越谷市東越谷1-5-17-1F
TEL/FAX 048-962-8052
E-MAIL koshigaya.net@gmail.com

No.132
2025年5月

生き活きレポート

越谷市民ネットワーク



～性犯罪の加害者も被害者も生まないために～

男尊女卑依存症社会からの脱却

相次ぐ性加害、なぜならない?

タレントによる性暴力やセクハラを容認してきたテレビ局の問題が明るみになり、加害者や関係者が引退・辞職する事態が相次いでいます。

しかし、性暴力の問題は今に始まったことではなく、多くの人が学校や職場や家庭でセクハラや性暴力被害に遭い、誰にも言えずに苦しんできました。



越谷市民ネットワークでは、性暴力を加害者だけの問題に矮小化するのではなく、社会の問題として考えるため、性依存症の治療を行っている西川口榎本クリニック副院長斉藤章佳さんの講演会を開催しました。

性加害の根底には男尊女卑的価値観がある

斉藤さんは講演の冒頭に、性犯罪は性衝動によってのみ行われるのではなく、支配欲を満たし優越感や達成感を得るために周到に計画されて行われている。その根底には、「男性は強くなければならない」「女性は男性を癒し、忖度しなければならぬ」といったいわゆる男尊女卑的な価値観に過剰適応する苦しさの原因の一つになっていると説明。また、そうした苦しさは性犯罪に結びつく背景には、スマホの普及によって暴力的な表現を含むアダルト動画が性の教科書になってしまっている現状があるとのことでした。このような状況を変えるためには、性的同意やジェンダー平等を含む包括

的な性教育の実施や、男尊女卑的な価値観を手放すために、性別を問わずそれぞれの生きづらさを言語化し共感し合うことが大切だとのお話にも深く納得しました。

もう黙っていてもいい

かくいう私も、4人きょうだいの長女として社会に蔓延している男尊女卑的価値観の空気を吸って成長したため、いまだに嫌と言えずに笑ってごまかしてしまったり、過剰に相手を立ててしまうことがあります。染み付いてしまった「男尊女卑の呪い」を解くのは容易ではありません。

でも、次の世代に負の連鎖を持ち込みたくはありません。家父長制や性別役割分担に縛られた生きづらい社会を変えていくために、まずは身の回りの小さな慣習からNOと言っていきたいです。

(運営委員:山田ゆう子)

《参加者の感想》

男性として、男尊女卑の呪縛の面から半生を振り返ってみました。

「イキり競争に勝たなければならない」、「モテない男は価値がない」、「男なら立派な仕事をして家庭を築き子孫を残さねばならない」、「会社に見捨てられないように仕事は休日返上してもやり切らねばならない」等々。呪縛の多さに気づき戸惑っています。

今後は、自分の痛みや疑問を言葉にしていこうとから始めたい。男性は支配しなくてよく、女性は付き従わなくてよいのです。誰もが尊重し合い、自由に生きられる社会に少しずつ変えていけたらと思います。(Oさん50代)

